報告書　資料

目次

資料１　高知県療養病床実態調査について
……P. 1
資料２　横浜市患者流動調査について ……P. 7
資料３　鹿児島県における医療提供体制
の調査・分析について ……P. 16
資料４　富山県における実態アンケート
について ……P. 17
資料５　高知県における対応について……P. 21

（資料１）高知県療養病床実態調査について
（高知県平成 27 年度地域医療構想策定ワーキンググループ
資料２及び資料３）

１　調査の趣旨等

地域医療構想に係る調査分析等事業
（療養病床実態調査委託料 予算額1,804千円）

【現状と課題】

本県の療養病床入院受療率は全国一高く、地域医療構想の必要病床数推計ツールの値でも大幅に現状を下回る数字となる。また、医療療養病床数に介護保険３施設（介護老人福祉施設・老人保健施設・療養病床）のベッド数とサービス付き高齢者住宅定員数を加えた数の７５歳以上人口に対する割合は全国１６位となっている。

本県における地域医療構想の策定にあたっては、特に多い療養病床に入院している方々の実態を把握しながら、医療と介護の適切な役割分担によりＱＯＬを高めていけるような療養環境の確保と併せて検討していく必要があるため、多くの関係者と現状をしっかりと共有し、理解を得ながら進めていくことが肝要。

【目的】

関係者の理解の下、**医療と介護の適切な役割分担により県民個々人のＱＯＬに適した療養環境を確保していくため**に、体の状態や医療の内容、療養にふさわしい施設・サービス等についての調査を行い、現在療養病床に入院している方々の実態を把握する。

【内容】

調査票については別紙参照。

【調査方法】

紙調査票による悉皆調査。

療養病床を持つ全ての医療機関に対し、12月11日午前0時時点で療養病床に入院している患者を対象として調査を依頼する。

【結果活用】

地域医療構想策定WGでの議論を踏まえ、今後の療養環境の確保へ向けた施策のためのデータとする。

２　調査票等

（案）

２７高医政第　　号
高医発第　　号
平成２７年１２月○日

療養病床を有する病院診療所の開設者　様

高知県健康政策部長　　山本 治（公印省略）
（一社）高知県医師会会長　岡林 弘毅（公印省略）

療養病床実態調査について（依頼）

初冬の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
貴施設におかれましては、平素より本県の医療提供体制の確保及び質の向上にご協力いただき厚くお礼申し上げます。

さて、昨年制定された医療介護総合確保推進法に基づく医療法改正に伴い、都道府県において、将来における医療提供体制のあるべき姿を示す「地域医療構想」を策定することとされました。このため、県医師会では昨年１１月に「地域医療ビジョン対策委員会」（以下「ビジョン委員会」）を設置して多くの病院関係団体にも参画いただいて、医療現場の意見を地域医療構想に反映できるよう議論を進めているところです。また、県においては高知県医療審議会医療計画評価推進部会の下に「高知県地域医療構想策定ワーキンググループ」（以下「構想WG」）を設置し、8 月 12 日に第１回構想WGを開催して本県における地域医療構想の検討を進めているところです。

地域医療構想では 2025 年（平成 37 年）における高度急性期から慢性期までの病床機能ごとに必要病床数を推計することとなっていますが、特に慢性期機能をはじめとして現状よりも大幅に少ない病床数となることが見込まれます。
一方、地域医療構想は地域の実情に応じて、医療機関の自主的な機能分化・連携の取組みが基本であるとともに、将来の慢性期医療や介護を必要とする方々の状態や生活の質の向上に応じた適切な療養環境を確保していく必要があることから、ビジョン委員会や構想WGでは、まず現在の療養病床に入院している患者さんの実態を把握して地域医療構想の検討を進める必要があるとのご意見をいただいています。

このため、県において、療養病床に現在入院している患者さんの状態、所得、家族の状況、提供されている医療や看護等の内容について実態調査を行い、医療・介護の関係者と現状を共有した上で地域医療構想の検討に反映していくこととしました。

つきましては、ご多用中のところ誠に恐れ入りますが、別添の調査票等にご記入のうえ、ご回答いただきますようご協力をお願いいたします。

（回答方法については、下記及び別紙の調査票等をご参照下さい。）

いただいたご回答については、集計・分析作業をすすめ、ビジョン委員会及び構想ＷＧにおける地域医療構想の検討に活用させていただきます。

持続可能で質の高い地域医療の提供体制を確保し、県民が住み慣れた地域で健やかで安心して暮らしていくことのできる「日本一の健康長寿県」を目指すため、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

記

1　対象

平成 27 年 12 月 11 日（金）0 時現在、療養病床に入院されている全ての患者

2　提出物

①患者票：1 患者につき 1 枚

②療養病床実態調査アンケートについて（回答）：1 施設につき 1 枚

3　提出方法

上記の①、②をまとめて同封の返信用封筒で郵送をお願いします。

4　提出期限

平成 28 年 1 月 7 日（木）必着

5　問い合わせ・送付先

〒780-8570　高知市丸ノ内 1 丁目 2 番 20 号
高知県健康政策部　医療政策課　伴・久米
Tel:　(088)823-9625
FAX:　(088)823-9137
E-mail:　131301@ken.pref.kochi.lg.jp

以上

平成　年　月　日

療養病床実態調査アンケートについて(回答)

このことについて、別添患者票を送付いたします。

(1)医療機関名	
(2)電話番号	
(3)所在地	
(4)記入者 (職・氏名)	

療養病床アンケート調査集計表結果

療養病床数	医療療養病床	床
	うち回復期リハビリテーション病棟	床
	うち地域包括ケア病棟	床
	介護療養病床	床

入院患者数(*)	医療療養病床	人	患者票枚数	枚
	うち回復期リハビリテーション病棟	人	患者票枚数	枚
	うち地域包括ケア病棟	人	患者票枚数	枚
	介護療養病床	人	患者票枚数	枚

＊平成27年12月11日午前0時現在の貴医療機関の入院患者数を記入ください。

○療養病床について、今後新たに回復期リハ病棟又は地域包括ケア病棟の届出を行う予定の有無

予定あり	予定なし	未定

○療養病床について、介護保険施設等への転換予定の有無

予定あり	予定なし	未定

○ご意見・ご質問等がありましたらお願いいたします。

(例えば、看護師配置基準を上回る配置をされているなどの特記事項があれば記載)

療養病床アンケート調査　　【患者票】

○療養病床入院患者の状態等について

平成27年**12月11日午前0時現在**の貴医療機関の入院患者のうち、療養病床の全患者、１人につき１枚ずつ記入してください。なお、できるだけ不明の回答が少なくなるよう、必要に応じて本人・家族等に確認して記入をお願いします。

（１）患者の基本情報を記入してください。

01　生年月	1.明治　2.大正　3.昭和　4.平成　　年　　月
02　性別	1.男　2.女
03　市町村名 （保険者名又は住所地）	
04　生活保護の有無	1.有　2.無
05　入院病床	1.医療療養病床（a.回復期リハビリテーション病棟、b.地域包括ケア病棟、c.左記以外） 2.介護療養病床

（２）患者の心身の状況（以下の06～12について、それぞれあてはまるもの**１つに**○をつけてください。）

06 医療区分	1.医療区分１　2.医療区分２　3.医療区分３　4.未実施
07 ＡＤＬ区分	1.ＡＤＬ区分１　2.ＡＤＬ区分２　3.ＡＤＬ区分３　4.未実施
08 要介護状態等区分	1.認定されていない　2.要支援１・２ 3.要介護１　4.要介護２　5.要介護３　6.要介護４　7.要介護５　8.不明
09 認知症高齢者の日常生活自立度	1.自立　2.Ⅰ　3.Ⅱ　4.Ⅱa　5.Ⅱb　6.Ⅲ　7.Ⅲa　8.Ⅲb　9.Ⅳ　10.M 11.不明・未実施
10 障害高齢者の日常生活自立度	1.自立　2.Ｊ１　3.Ｊ２　4.Ａ１　5.Ａ２　6.Ｂ１　7.Ｂ２　8.Ｃ１　9.Ｃ２ 10.不明・未実施
11 入院経路	1.一般病床　2.医療療養病床　3.介護療養病床 4.介護老人保健施設　5.介護老人福祉施設　6.有料老人ホーム 7.軽費老人ホーム（ケアハウス）　8.認知症高齢者グループホーム 9.サービス付き高齢者住宅　10.自宅　11.その他（　　）　12.不明
12 問11で１～３と回答された方の前の医療機関での入院日数	日　・　不明

（３）家庭等の状況（以下の13～16について、それぞれあてはまるもの**１つに**○をつけてください。）

13 世帯の状況	入院時	1.単身世帯　2.高齢者のみの世帯(単身世帯を除く。)　3.その他の世帯 4.不明
	現在	1.単身世帯　2.高齢者のみの世帯(単身世帯を除く。)　3.その他の世帯 4.不明
	住居の状況	1.なし　2.自宅（借家を含む。）　3.介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム等からの一時的な入院　4.その他　5.不明
14 自宅での介護者の有無	1.日中夜間とも介護できる人がいる 2.日中のみ介護できる人がいる　3.夜間のみ介護できる人がいる 4.日中夜間ともに介護できる人がいない（介護者が病期等により介護できない場合も含む。） 5.その他・不明	
15 自己負担等の区分（所得状況等）	医療療養病床	1.低所得Ⅰ　2.低所得Ⅱ　3.一般　4.現役並み所得者 5.その他
		自己負担分に対する公費負担　1.有　2.無
	介護療養病床	1.利用者負担第１段階　2.利用者負担第２段階 3.利用者負担第３段階　4.利用者負担第4段階
16 患者家族が望む療養環境	1.一般病床　2.医療療養病床　3.介護療養病床　4.介護老人保健施設　5.介護老人福祉施設 6.有料老人ホーム　7.軽費老人ホーム（ケアハウス）　8.認知症高齢者グループホーム 9.サービス付き高齢者住宅　10.自宅　11.その他（　　）　12.不明	

（４）患者に提供している医療等の内容

（以下の17,18,19について、**あてはまるものすべてに**○をつけてください。20については、数字の記載をお願いします。）

17 提供されている医療処置等の内容　（前月に行われた処置。5、6及び7については、すでに行われたものを含む。）

1.吸痰吸引　2.経管栄養（胃ろうを除く）　3.モニター測定　4.酸素療法　5.気管切開 6.人工肛門　7.胃ろう　8.膀胱カテーテル　9.中心静脈栄養　10.点滴 11.褥瘡処置（Ⅲ度以上）　12.疼痛管理　13.透析　14.その他（　　）

18　問17のうち夜勤時間帯（午後10 時から翌日の午前５時まで）でも提供されている医療処置等の内容

1.吸痰吸引　2.経管栄養（胃ろうを除く）　3.モニター測定　4.酸素療法　5.気管切開 6.人工肛門　7.胃ろう　8.膀胱カテーテル　9.中心静脈栄養　10.点滴 11.褥瘡処置（Ⅲ度以上）　12.疼痛管理　13.透析　14.その他（　　）

19　平成27年11月1日から30日の間で行われた緊急の検査や処置　（１度でもあれば選択、定期検査は除く。）

1.生化学検査　2.血算　3.尿一般沈さ　4.検体培養　5.その他検体検査 6.12誘導心電図　7.超音波検査　8.その他生体検査 9.レントゲン撮影　10.ＣＴ撮影　11.ＭＲＩ撮影　12.その他画像診断 13.抗生剤点滴　14.手術　15.麻酔　16.放射線治療　17.病理診断 18.その他（　　）

20 提供されているリハビリの量・種類（例：呼吸器リハ、運動器リハ等）

（　　）単位/日	（　　）リハ

（５）転出準備状況について（以下の21～23について、それぞれあてはまるもの**１つに**○をつけてください。）

21 退院支援担当者（MSW、Ns等）が適当と考える療養環境

1.一般病床　2.医療療養病床　3.介護療養病床　4.介護老人保健施設　5.介護老人福祉施設 6.有料老人ホーム　7.軽費老人ホーム（ケアハウス）　8.認知症高齢者グループホーム 9.サービス付き高齢者住宅　10.自宅　11.その他（　　）　12.不明	
<理由>	

22 退院先の予定

1.調整中　2.転院待ち　3.入所待ち　4.なし

23 問22で１～３と回答された方の行き先

1.一般病床　2.医療療養病床　3.介護療養病床　4.介護老人保健施設　5.介護老人福祉施設 6.有料老人ホーム　7.軽費老人ホーム（ケアハウス）　8.認知症高齢者グループホーム 9.サービス付き高齢者住宅　10.自宅　11.その他（　　）　12.不明

<参考>
入院患者さんの入院理由をわかる範囲で選んでください。
(複数回答可)

A.疾病の急性期状態が安定したため B.機能訓練・リハビリテーションが必要なため C.疾病が急性発症又は急性憎悪したため D.継続的高度な医療管理が必要なため E.在宅療養でも対応できるが家族が介護困難又は不在のため F.在宅医療でも対応できるが現在の住まいでは生活が困難であるため G.在宅療養でも対応できるが必要な在宅医療及び介護サービスが確保できないため H.それ以外の理由で本人または家族が強く希望するため

（資料２）横浜市患者流動調査について

調査目的

（１）機能別病床数調査

■横浜市内の機能別病床数を調査する
◎医療需要に対して適正な水準かどうか
◎平成37年度における市内の必要病床数

（２）患者流動調査

■横浜市内の入院患者の流れを把握する
■出口問題が発生している原因を把握する

調査方法

■市内134病院の中で、精神科単科・産科専門の病院を除く、109病院に調査票を配布して、病院スタッフに記載してもらい回収した。

（１）機能別病床数調査
平成25年10月21日　時点での病院の状況

（２）患者流動調査
■退院患者
平成25年10月21日～27日　の間に退院した者
■転・退院が延びている患者
平成25年10月27日　時点で転・退院が延びている者

■機能別病床数調査票

様式1

病院名	

【機能別病床数調査】

下記「調査機能区分」に基づき、実態ベースで病床数を御記入ください。

調査機能区分	医療機能の内容	病床数（床）
高度急性期	○急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能	
急性期	○急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能	
回復期	○急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療を提供する機能 ○急性期を経過した患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを提供する機能	
慢性期	○長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能 ○長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能	
緩和ケア	○緩和ケア病棟入院料を算定している病床	
産科	○出産のための患者を入院させる病床	
休床	○医療従事者の不足等の理由により、休床としている病床	

※　御回答いただいたデータは、統計的に処理いたします。

【その他調査】

問1　10月28日（月）時点で、入院待ち患者は何人いますか。（10月28日入院患者を含む。）
内訳が難しい場合は、計のみの記載で構いません。

計　　人（内訳：検査入院　　人、教育入院　　人、その他入院　　人）

問2－1　貴院に退院調整を行う部署がありますか。

（ア）はい　（イ）いいえ

問2－2　問2－1で「（ア）はい」と答えた病院に伺います。
退院調整を行う部署の人員体制について御記入ください。

（ア）医師（専任　人・兼務　人）　（イ）看護師（専任　人・兼務　人）

（ウ）事務（専任　人・兼務　人）　（エ）社会福祉士（専任　人・兼務　人）

（オ）その他（専任　人・兼務　人　職種：　　）

患者ID（氏名）	

（精神・感染症・結核病床及び出産のための入院患者は除く。）

（切り取り線）

【患者流動調査票（退院患者用）・様式（表）】

様式2

1 病院名	―
2 年齢	歳代（ 前半 ・ 後半 ）
3 性別	1. 男 2. 女
4 来院方法	1. 救急車 2. ウォークイン（紹介状：有） 3. ウォークイン（紹介状：無） 4. 予約入院 （ 予定入院 ） 5. 他病院・有床診療所からの転院
5 来院前の生活場所	1. 居宅（在宅医療：無） 2. 居宅（在宅医療：有） 3. サービス付き高齢者向け住宅 4. グループホーム 5. 介護老人保健施設 6. 特別養護老人ホーム 7. その他老人ホーム 8. 病院 （1） 一般病床（高度急性期） （2） 一般病床（急性期） （3） 一般病床（回復期） （4） 一般病床（慢性期） （5） 一般病床（緩和ケア） （6） 一般病床（不明） （7） 療養病床（回復期） （8） 療養病床（慢性期） （9） 療養病床（不明） 9. 有床診療所 （1） 一般病床 （2） 療養病床 （3） 不明 10. その他 （ ）
6 来院前の生活場所の所在地	1. 横浜市内 （1） 北部医療圏 （2） 西部医療圏 （3） 南部医療圏 鶴見、神奈川、港北、緑、青葉、都筑 西、保土ケ谷、旭、戸塚、泉、瀬谷 中、南、港南、磯子、金沢、栄 2. 横浜市外（神奈川県内） 3. 東京都内 4. その他
7 入院日時（24時間制）	月 日（ ） 時台
8 入院した病床	1. 一般病床（高度急性期） 2. 一般病床（急性期） 3. 一般病床（回復期） 4. 一般病床（慢性期） 5. 一般病床（緩和ケア） 6. 療養病床（回復期） 7. 療養病床（慢性期）
9 主病名	
10 入院時の重症度（または入院目的）	1. 心肺停止 2. 重症 （ 生命の危険がある ） 3. 中等症 （ 生命の危険は少ないが、入院治療を要する ） 4. 検査入院 5. 教育入院

※ 裏面の記載もお願いします。

患者ID（氏名）	

（精神・感染症・結核病床及び出産のための入院患者は除く。）

（切り取り線）

【患者流動調査票（退院患者用）・様式（裏）】

11 転・退院日	退院日 ： 月 日（ ） 医療的に転・退院が可能となった日よりも転・退院日が延びましたか。 1. はい （ 延びた日数 ： 日 ） 2. いいえ
12 転・退院が延びた理由（複数回答可）	1. 転院・退院施設側の都合 （1） 満床（空床待ち） （2） 受入審査 （3） 施設の医療水準 （4） 精神疾患を抱える患者のため （5） その他 （ ） 2. 本人・家族の都合 （1） 転・退院ということに本人または家族がそもそも納得しない （2） 家族の受入態勢の確保に時間を要した （3） 本人の退院後の希望が決まらない （4） 本人と家族の退院後の希望に違いがある （5） キーパーソン的な人はいるが、機能していない （6） キーパーソンの不在 （7） 金銭的な問題 （8） 転退院への不安 （9） 転院・退院施設に対する不満 （10） その他 （ ） 3. 在宅医療サービス提供の調整 4. 介護サービス提供の調整 5. 介護認定手続きの問題 6. その他 （ ）
13 転・退院先	1. 居宅（在宅医療：無） 2. 居宅（在宅医療：有） 3. サービス付き高齢者向け住宅 4. グループホーム 5. 介護老人保健施設 6. 特別養護老人ホーム 7. その他老人ホーム 8. 病院 （1） 一般病床（高度急性期） （2） 一般病床（急性期） （3） 一般病床（回復期） （4） 一般病床（慢性期） （5） 一般病床（緩和ケア） （6） 一般病床（不明） （7） 療養病床（回復期） （8） 療養病床（慢性期） （9） 療養病床（不明） 9. 有床診療所 （1） 一般病床 （2） 療養病床 （3） 不明 10. 死亡退院 11. その他 （ ）
14 転・退院先の所在地	1. 横浜市内 （1） 北部医療圏 （2） 西部医療圏 （3） 南部医療圏 鶴見、神奈川、港北、緑、青葉、都筑 西、保土ケ谷、旭、戸塚、泉、瀬谷 中、南、港南、磯子、金沢、栄 2. 横浜市外（神奈川県内） 3. 東京都内 4. その他
15 退院後も必要とされる医療行為（複数回答可）	1. 喀痰吸引 2. 経管栄養 3. 胃瘻 4. 中心静脈栄養 5. 気管切開 6. 人工呼吸器管理 7. 酸素投与 8. 褥瘡処置 9. 尿道カテーテル 10. インスリン自己注射 11. がん疼痛治療薬の投与 12. その他 （ ）

患者ID（氏名）	

（精神・感染症・結核病床及び出産のための入院患者は除く。）

（切り取り線）

【患者流動調査票（転・退院が延びている患者用）・様式（表）】

様式3

1 病院名	―
2 年齢	歳代（ 前半 ・ 後半 ）
3 性別	1. 男 2. 女
4 来院方法	1. 救急車 2. ウォークイン（紹介状：有） 3. ウォークイン（紹介状：無） 4. 予約入院（ 予定入院 ） 5. 他病院・有床診療所からの転院
5 来院前の生活場所	1. 居宅（在宅医療：無） 2. 居宅（在宅医療：有） 3. サービス付き高齢者向け住宅 4. グループホーム 5. 介護老人保健施設 6. 特別養護老人ホーム 7. その他老人ホーム 8. 病院 （1） 一般病床（高度急性期） （2） 一般病床（急性期） （3） 一般病床（回復期） （4） 一般病床（慢性期） （5） 一般病床（緩和ケア） （6） 一般病床（不明） （7） 療養病床（回復期） （8） 療養病床（慢性期） （9） 療養病床（不明） 9. 有床診療所 （1） 一般病床 （2） 療養病床 （3） 不明 10. その他（ ）
6 来院前の生活場所の所在地	1. 横浜市内 （1） 北部医療圏 （2） 西部医療圏 （3） 南部医療圏 鶴見、神奈川、港北、緑、青葉、都筑 西、保土ケ谷、旭、戸塚、泉、瀬谷 中、南、港南、磯子、金沢、栄 2. 横浜市外（神奈川県内） 3. 東京都内 4. その他
7 入院日時（24時間制）	月 日（ ） 時台
8 入院した病床	1. 一般病床（高度急性期） 2. 一般病床（急性期） 3. 一般病床（回復期） 4. 一般病床（慢性期） 5. 一般病床（緩和ケア） 6. 療養病床（回復期） 7. 療養病床（慢性期）
9 主病名	
10 入院時の重症度（または入院目的）	1. 心肺停止 2. 重症（ 生命の危険がある ） 3. 中等症（ 生命の危険は少ないが、入院治療を要する ） 4. 検査入院 5. 教育入院

※ 裏面の記載もお願いします。

患者ID（氏名）	

（精神・感染症・結核病床及び出産のための入院患者は除く。）

（切り取り線）

【患者流動調査票（転・退院が延びている患者用）・様式（裏）】

11 転・退院が延びている日数	医療的に転・退院が可能となった日からどれくらい延びていますか。 延びている日数 ：　　日
12 転・退院が延びている理由（複数回答可）	1.　転院・退院施設側の都合 （1） 満床（空床待ち）　（2） 受入審査　（3） 施設の医療水準 （4） 精神疾患を抱える患者のため　（5） その他 （　　） 2.　本人・家族の都合 （1） 転・退院ということに本人または家族がそもそも納得しない （2） 家族の受入態勢の確保に時間を要した （3） 本人の退院後の希望が決まらない （4） 本人と家族の退院後の希望に違いがある （5） キーパーソン的な人はいるが、機能していない （6） キーパーソンの不在　（7） 金銭的な問題　（8） 転退院への不安 （9） 転院・退院施設に対する不満　（10） その他 （　　） 3.　在宅医療サービス提供の調整 4.　介護サービス提供の調整　　5.　介護認定手続きの問題 6.　その他 （　　）
13 転・退院の希望先	1.　居宅（在宅医療：無）　　2.　居宅（在宅医療：有） 3.　サービス付き高齢者向け住宅　4.　グループホーム 5.　介護老人保健施設　6.　特別養護老人ホーム　7.　その他老人ホーム 8.　病院 （1） 一般病床（高度急性期）　（2） 一般病床（急性期） （3） 一般病床（回復期）　（4） 一般病床（慢性期） （5） 一般病床（緩和ケア）　（6） 一般病床（不明） （7） 療養病床（回復期）　（8） 療養病床（慢性期）　（9） 療養病床（不明） 9.　有床診療所 （1） 一般病床　（2） 療養病床　（3） 不明 10.　その他 （　　）
14 転・退院の希望先の所在地	1.　横浜市内 （1） 北部医療圏　（2） 西部医療圏　（3） 南部医療圏 鶴見、神奈川、港北、緑、青葉、都筑　西、保土ケ谷、旭、戸塚、泉、瀬谷　中、南、港南、磯子、金沢、栄 2.　横浜市外（神奈川県内）　3.　東京都内　4.　その他
15 退院後も必要とされる医療行為（複数回答可）	1.　喀痰吸引　2.　経管栄養　3.　胃瘻　4.　中心静脈栄養 5.　気管切開　6.　人工呼吸器管理　7.　酸素投与　8. 褥瘡処置 9.　尿道カテーテル　10.　インスリン自己注射 11. がん疼痛治療薬の投与　12.　その他 （　　）

患者流動調査票（退院患者用） 調査事項 記載マニュアル

番号	項目	説明	補足説明
	患者ID（氏名）	記入の際、対象者を特定する欄として、ご活用ください。	記載している途中に、この様式の情報が誰のものか分からなくなってしまうことを防ぎます。 提出の前に、点線部分で切り取る等して、情報を必ず削除してください。
1	病院名	貴院の病院名を記入してください。 ―（ハイフン）以後については、1から順に通し番号をふってください。	病院名については、印刷済のものを配布するようにしていますが、万が一、記載漏れがあった場合、記入をお願いします。 ―（ハイフン）以後の通し番号については、記載漏れがあった際の問い合せ用として使用させていただきます。通し番号がどの患者に該当するか病院内で分かるようにしておいてください。
2	年齢	利用者の年代（退院時）を、10歳刻みで記入してください。 《例：30歳代、50歳代》 また、内訳の前半は下一桁の年齢が0～4歳、後半は5～9歳としますので、該当するものに○をつけてください。	
3	性別	該当する番号に○をつけてください。	
4	来院方法	該当する番号に○をつけてください。	ウォークインは、救急外来であるか通常の時間内の外来であるかを問わず、受診後、そのまま入院となった場合、選択するものとします。 また、紹介状の有無については、新患であるか再来患者であるかを問わず、当該受診時に所持しているかどうかで判断してください。 外来受診後、数日経過してからの入院となる場合は、「4．予約入院 （ 予定入院 ）」を選択してください。
			転院の場合は、「5．他病院・有床診療所からの転院」を選択してください。 ただし、レアケースだとは思いますが、消防局（消防本部）の保有する救急車の利用となった場合は、「1．救急車」を選択してください。
5	来院前の生活場所	該当する番号に○をつけてください。 「8．病院」の場合、（1）～（9）のいずれか、「9．有床診療所」の場合、（1）～（3）のいずれかに○をつけてください。 施設等の定義は「別紙（施設・病床定義）」参照	「居宅」とは、自宅だけではなく、親族の家も含むこととします。
			「10．その他」は、「1．～9．」以外の場所や路上生活等を想定しています。
6	来院前の生活場所の所在地	該当する番号に○をつけてください。 「1．横浜市内」の場合、（1）～（3）のいずれかに○をつけてください。	横浜市内の場合、それぞれの医療圏に該当する区を記入していますが、区ではなく、該当する分類番号に○をつけてください。
7	入院日時 （24時間制）	入院した日時を、24時間制で記入してください。 月日の後ろの（ ）内には、曜日を記入してください。	
8	入院した病床	該当する番号に○をつけてください。 施設等の定義は「別紙（施設・病床定義）」参照	ケアミックスの場合は、最終的に入院した病床の機能で○をつけてください。
9	主病名	主病名を記入してください。	
10	入院時の重症度 （または入院目的）	該当する番号に○をつけてください。	

患者流動調査票（退院患者用） 調査事項 記載マニュアル

番号	項目	説明	補足説明
11	転・退院日	実際の転・退院日を記入してください。 月日の後ろの（ ）内には、曜日を記入してください。	10月21日（月）～27日（日）のいずれかの日となります。
		該当する番号に○をつけてください。 「1．はい」の場合は、延びた日数も記入してください。	10月21日に転・退院が可能だったが、22日が実際の転・退院日となった場合は、延びた日数は1日となります。 同様のケースで、24日が実際の転・退院日となった場合は、延びた日数は3日となります。
			【例】 10月21日：医師が家族に、「2日後以降ならいつ退院しても良いです。あとは家族で話し合って決めてください。」と言う。 10月23日：21日の2日後　10月25日：退院 上記の例の場合は、23日が転・退院可能日と判断されるため、延びた日数は2日となります。
12	転・退院が延びた理由 （複数回答可）	該当する番号全てに○をつけてください。 「1．転院・退院施設側の都合」の場合、（1）～（5）のいずれか、また、「2．本人・家族の都合」の場合、（1）～（10）のいずれかに○をつけてください。	「2．（2）家族の受入態勢」とは、家族の仕事の調整や兄弟間の役割分担の調整等の要因を想定しています。
			「2．（5）キーパーソン的な人はいるが、機能していない」とは、家族・親族等はいるものの、キーパーソンとしての役割を果たせていない場合等を想定しています。
			「2．（6）キーパーソンの不在」とは、単身等により、そもそもキーパーソンになりうる人がいない場合等を想定しています。
			「5．介護認定手続きの問題」とは、申請や認定が遅延している場合等を想定しています。
13	転・退院先	該当する番号に○をつけてください。 「8．病院」の場合、（1）～（9）のいずれか、「9．有床診療所」の場合、（1）～（3）のいずれかに○をつけてください。 施設等の定義は「別紙（施設・病床定義）」参照	「居宅」とは、自宅だけではなく、親族の家も含むこととします。
14	転・退院先の所在地	該当する番号に○をつけてください。 「1．横浜市内」の場合、（1）～（3）のいずれかに○をつけてください。	横浜市内の場合、それぞれの医療圏に該当する区を記入していますが、区ではなく、該当する分類番号に○をつけてください。
15	退院後も必要とされる医療行為 （複数回答可）	患者が何らかの医療行為を必要とする場合、該当する番号全てに○をつけてください。	

患者流動調査票（転・退院が延びている患者用） 調査事項 記載マニュアル

番号	項目	説明	補足説明
	患者ID（氏名）	記入の際、対象者を特定する欄として、ご活用ください。	記載している途中に、この様式の情報が誰のものか分からなくなってしまうことを防ぎます。 提出の前に、点線部分で切り取る等して、情報を必ず削除してください。
1	病院名	貴院の病院名を記入してください。 ―（ハイフン）以後については、1から順に通し番号をふってください。	病院名については、印刷済のものを配布するようにしていますが、万が一、記載漏れがあった場合、記入をお願いします。 ―（ハイフン）以後の通し番号については、記載漏れがあった際の問い合せ用として使用させていただきます。通し番号がどの患者に該当するか病院内で分かるようにしておいてください。
2	年齢	利用者の年代（退院時）を、10歳刻みで記入してください。 《例：30歳代、50歳代》 また、内訳の前半は下一桁の年齢が0～4歳、後半は5～9歳としますので、該当するものに○をつけてください。	
3	性別	該当する番号に○をつけてください。	
4	来院方法	該当する番号に○をつけてください。	ウォークインは、救急外来であるか通常の時間内の外来であるかを問わず、受診後、そのまま入院となった場合、選択するものとします。 また、紹介状の有無については、新患であるか再来患者であるかを問わず、当該受診時に所持しているかどうかで判断してください。 外来受診後、数日経過してからの入院となる場合は、「4．予約入院（　予定入院　）」を選択してください。
			転院の場合は、「5．他病院・有床診療所からの転院」を選択してください。 ただし、レアケースだとは思いますが、消防局（消防本部）の保有する救急車の利用となった場合は、「1．救急車」を選択してください。
5	来院前の生活場所	該当する番号に○をつけてください。 「8．病院」の場合、（1）～（9）のいずれか、「9．有床診療所」の場合、（1）～（3）のいずれかに○をつけてください。 施設等の定義は「別紙（施設・病床定義）」参照	「居宅」とは、自宅だけではなく、親族の家も含むこととします。
			「10．その他」は、「1．～9．」以外の場所や路上生活等を想定しています。
6	来院前の生活場所の所在地	該当する番号に○をつけてください。 「1．横浜市内」の場合、（1）～（3）のいずれかに○をつけてください。	横浜市内の場合、それぞれの医療圏に該当する区を記入していますが、区ではなく、該当する分類番号に○をつけてください。
7	入院日時 （24時間制）	入院した日時を、24時間制で記入してください。 月日の後ろの（　）内には、曜日を記入してください。	
8	入院した病床	該当する番号に○をつけてください。 施設等の定義は「別紙（施設・病床定義）」参照	ケアミックスの場合は、最終的に入院した病床の機能で○をつけてください。
9	主病名	主病名を記入してください。	
10	入院時の重症度 （または入院目的）	該当する番号に○をつけてください。	

患者流動調査票（転・退院が延びている患者用）　調査事項　記載マニュアル

番号	項目	説明	補足説明
11	転・退院が 延びている日数	10月27日時点で、転・退院が延びている日数を記入してください。	10月21日に転・退院が可能だった場合は、延びている日数は6日となります。 10日25日に転・退院が可能だった場合は、延びている日数は2日となります。
			【例】 10月21日：医師が家族に、「2日後以降ならいつ退院しても良いです。あとは家族で話し合って決めてください。」と言う。 10月23日：21日の2日後　10月30日：退院見込 上記の例の場合は、23日が転・退院可能日と判断されるため、延びている日数は4日となります。
12	転・退院が 延びている理由 （複数回答可）	該当する番号全てに○をつけてください。 「1．転院・退院施設側の都合」の場合、（1）～（5）のいずれか、また、「2．本人・家族の都合」の場合、（1）～（10）のいずれかに○をつけてください。	「2．（2）家族の受入態勢」とは、家族の仕事の調整や兄弟間の役割分担の調整等の要因を想定しています。
			「2．（5）キーパーソン的な人はいるが、機能していない」とは、家族・親族等はいるものの、キーパーソンとしての役割を果たせていない場合等を想定しています。
			「2．（6）キーパーソンの不在」とは、単身等により、そもそもキーパーソンになりうる人がいない場合等を想定しています。
			「5．介護認定手続きの問題」とは、申請や認定が遅延している場合等を想定しています。
13	転・退院の希望先	該当する番号に○をつけてください。 「8．病院」の場合、（1）～（9）のいずれか、「9．有床診療所」の場合、（1）～（3）のいずれかに○をつけてください。 施設等の定義は「別紙（施設・病床定義）」参照	「居宅」とは、自宅だけではなく、親族の家も含むこととします。
14	転・退院の 希望先の所在地	該当する番号に○をつけてください。 「1．横浜市内」の場合、（1）～（3）のいずれかに○をつけてください。	横浜市内の場合、それぞれの医療圏に該当する区を記入していますが、区ではなく、該当する分類番号に○をつけてください。
15	退院後も必要とされる医療行為 （複数回答可）	患者が何らかの医療行為を必要とする場合、該当する番号全てに○をつけてください。	

患者流動調査票　調査事項　記載マニュアル　別紙（施設・病床定義）

※　定義については、あくまでも、今回の患者流動調査における定義とします。
※　転・退院先の病床の選択で判断に迷う際は、転・退院先にどのような医療機能を期待したかを判断材料の1つにしてください。

病床・機能・施設名	定義
居宅	自宅だけではなく、親族の家も含むこととします。
サービス付き高齢者向け住宅	高齢者の暮らしを支援するサービスの付いたバリアフリー住宅です。 （「サービス付き高齢者向け住宅」の名称を使用するには登録が必要となります。）
グループホーム	認知症高齢者グループホームとします。 認知症高齢者が家庭的な雰囲気の中、5～9人で共同生活を送りながら、日常生活の介護を受けます。
介護老人保健施設	利用者が自立した日常生活を営むことが出来るよう、日常生活動作のリハビリ等を行いながら、在宅生活復帰をめざす施設です。
特別養護老人ホーム	寝たきり又は認知症のために常に介護を必要とする人で、在宅で介護を受けることが難しい人のための入所施設です。
その他老人ホーム	その他老人ホームは、有料老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホームとします。
一般病床（高度急性期）	一般病床で、急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能の病床とします。
一般病床（急性期）	一般病床で、急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能の病床とします。
一般病床（回復期）	一般病床で、急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療を提供する機能、もしくは、急性期を経過した患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを提供する機能の病床とします。 （迷われる際は、亜急性期入院医療管理料や回復期リハビリテーション病棟入院料を算定している一般病床、もしくは、亜急性期や回復期を謳っている一般病床であることも判断材料の1つとしてください。）
一般病床（慢性期）	一般病床で、長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能、もしくは、長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能の病床とします。
一般病床（緩和ケア）	一般病床で、緩和ケア病棟入院料を算定している病床とします。
一般病床（不明）	一般病床ではあるものの、機能が不明確な場合に選択できることとします。（できる限り、選択は避けていただくようお願いいたします。）
療養病床（回復期）	療養病床で、急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療を提供する機能、もしくは、急性期を経過した患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを提供する機能の病床とします。 （迷われる際は、亜急性期入院医療管理料や回復期リハビリテーション病棟入院料を算定している療養病床、もしくは、亜急性期や回復期を謳っている療養病床であることも判断材料の1つとしてください。）
療養病床（慢性期）	療養病床で、長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能、もしくは、長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能の病床とします。
療養病床（不明）	療養病床ではあるものの、機能が不明確な場合に選択できることとします。（できる限り、選択は避けていただくようお願いいたします。）
有床診療所（一般病床）	有床診療所の一般病床とします。
有床診療所（療養病床）	有床診療所の療養病床とします。
有床診療所（不明）	有床診療所ではあるものの、一般病床か療養病床か不明確な場合に選択するものとします。 （できる限り、選択は避けていただくようお願いいたします。）

（資料３）鹿児島県における医療提供体制の調査・分析について
（鹿児島県地域医療構想検討委員会第２回(H27.12.25)資料６）

地域医療ビジョン策定に係る調査・分析について

① 県による調査・分析（委託実施分含む）

（1）本県の医療提供体制に関する調査・分析
①本県に必要な高度医療機能とその配置のあり方に関する調査・分析
②2次医療圏ごとの急性期機能の医療機関別・疾病別の現状分析
③在宅医療の提供体制に関する調査・分析
ア 県から提供するデータブック等を活用して，本県の在宅医療提供体制を市町村ごとに図式化
イ 在宅医療の提供実績及び将来の見込み量に係るアンケート調査・分析
ウ 無医地区・準無医地区における最寄りの医療機関，訪問看護ステーション及び介護事業所からのアクセス環境，人口，受療動向及び介護サービス受給状況等に係る調査・分析

（2）慢性期医療需要の実態把握と調査・分析
①療養病床の入院患者に対する医療の実態に関するアンケート調査及び分析
②療養病床退院患者の再入院の状況調査と要因分析
③療養病床の入院受療率に係る都道府県間（山形県・長野県⇔高知県・本県）の地域差に係る要因分析

（3）推計ツールや病床機能報告等で把握できないデータの調査・分析
①レセプトデータ等を活用して二次医療圏ごとの外来医療に係る医療需要を推計
②レセプトデータ等を活用して県外流出患者の疾病別患者数と要因分析

（資料４）富山県における実態アンケートについて
（富山県医療審議会第２回(H27.10.6)資料４－２）

実態アンケート調査項目について

①平成27年３・４月の診療データ
ア　ＤＰＣ対象医療機関には、平成27年３・４月（２ヶ月分）のDPCデータEファイルをエクセルファイル形式で提供してもらう。

項目	提供前に行っていただく作業
施設コード	事前にお知らせする番号に書き換えてください。
データ識別番号	連結不可能匿名化のため、全ての番号につき共通の、任意の数字を足してください。
退院年月日	特になし
入院年月日	
データ区分	
順序番号	
病院点数マスタコード	
レセプト電算処理システム用コード	
解釈番号	
診療行為名称	
行為点数	
行為薬材料	
行為材料料	
円・点区分	
行為回数	
保険者番号	連結不可能匿名化のため、全ての番号につき共通の、任意の数字を足してください。
レセプト種別コード	特になし
実施年月日	
レセプト科区分	
診療科区分	
医師コード	
病棟コード	
病棟区分	
入外区分	

イ　ＤＰＣ対象でない医療機関には、平成27年３・４月（２ヶ月分）のデータについて、日計表から次のデータ項目を抽出いただき、エクセルファイル形式にて提供してもらう。

項目	提供前に行っていただく作業
医療機関コード	事前にお知らせする番号にご変更ください。
入院年月日	特になし
診療識別	
診療行為レコード	
医薬品コード、特定機材コード	
使用量	
合計点数	
点数	
回数	
保険者番号	患者さんを識別する番号として使用します。 連結不可能匿名化のため、全ての番号につき共通の、任意の数字を足してください。
診療年月日	特になし
病棟区分	

② 平成27年３・４月１日の療養病床における医療区分別患者数

保険区分	医療区分	ADL区分①	ADL区分②	ADL区分③
医療療養	1			
	2			
	3			
介護療養	1			
	2			
	3			

③ 平成27年３・４月１日の要介護度別利用者数（介護療養病床）

要介護度１	要介護度２	要介護度３	要介護度４	要介護度５

④ 平成26年度の平均在院日数

⑤ 平成26年度の病床稼働率（各月別）

⑥ 平成26年度の休床数
（休床届を出していないが、稼動していない病床を含む。理由も付記。）

⑦ 医療機関の機能分化・強化と連携
ア 病病連携、病診連携の推進のため、県に対する要望事項
イ 上記⑥について、医療機関としての対策（考え方）
ウ 上記イの対策により、看護職員配置基準の見直しの有無 等

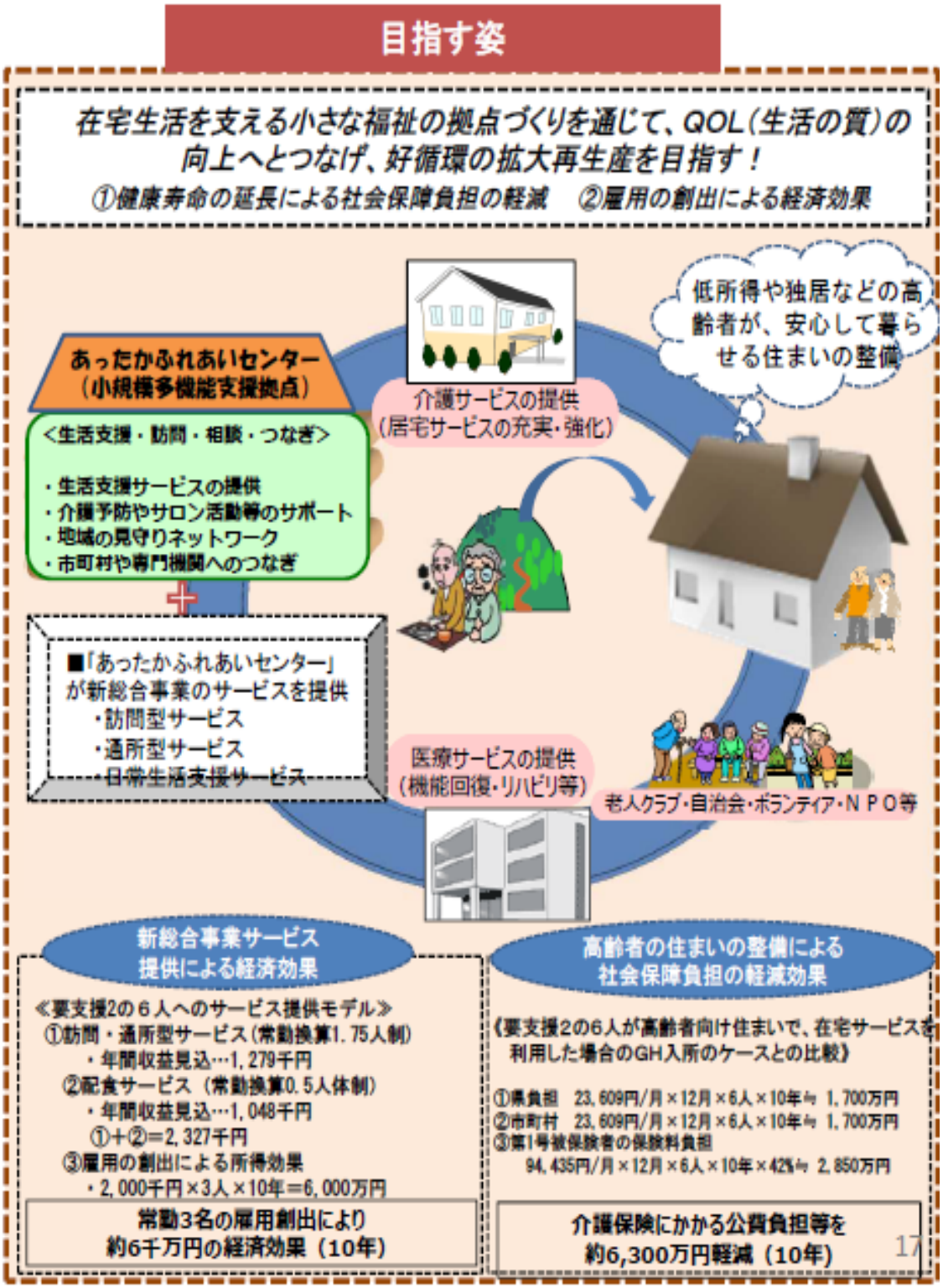
在宅医療等の実施状況調査項目について

① 医療機関の訪問診療・訪問看護の有無、医師数、看護師数

② 在宅医療・訪問看護等の実施状況（平成27年９月１日から30日までの実績）

区　分	ア.訪問回数	イ.患者数
１訪問診療	回	人
２往診	回	人
３訪問看護（みなし）	回	人

③ 在宅医療未実施の医療機関の今後の意向

④ 今後の意向や意見・要望

（資料５）高知県における対応について
（厚生労働省「療養病床等の在り方などに関する検討会」
第２回(H27.9.9)資料３）